

Crescendo

M E D I K I T A R T S C E N T E R くれっしえんど

2022.12
vol.150



「新 かぼちゃといもがら物語」#7

『神舞の庭』

ひなたのパロック#4

音楽を愛するみなさまへ、
18世紀ハンプルクより

加藤昌則の
「聴かぬなら聴かせてみせよう!!クラシック」#2

Miyazaki

アウトリーチアーティスト・エキシビション#6

「22みやざきの舞台芸術シリーズII」

劇団いかがなものか『喫煙室2023』

「神舞の庭」ビジュアル撮影のために来県した出演者3名
(左から東風万智子、大沢健、石川潮太郎)



メデキット県民文化センター
MEDIKIT ARTS CENTER

広報誌

か
み
ま
い
の

神舞の庭

作／長田育恵 演出／立山ひろみ

～あらすじ～

宮崎の山間にある集落で、代々その地区の神楽を受け継いできた中崎家。祭りの前日、実家で暮らす次男・亮二夫婦のもとに、東京在住の長男・俊一が、突然妻子を連れて帰って来る。同日、老母・登志子が倒れて昏睡状態になってしまい……。混乱の中、中崎家の人々が抱える悩みが次第に明らかになっていく。

宮崎を舞台に、“今を生きる”人々を描く演劇創作シリーズ「新 かぼちゃといもがら物語」。第7弾は、2020年に上演し好評を博した『神舞の庭』（新演出版）を、一部キャストを新たにお送りいたします。今回、ビジュアル撮影のために来県した、出演者の大沢健さん、東風万智子さん、そして新たに出演する石川湖太郎さんに、お話を伺いました。

る不安が正直ありました。けれども、作品もそうですけど、この「新 かぼちゃといもがら物語」のコンセプトや、宮崎に1カ月滞在して宮崎の空気感に触れながら創作する、そして宮崎と東京の2箇所で開催する、ということがとても素敵だなと思って。そこに強く惹かれて、ぜひ僕で良ければ参加したいですってお答えしました。

―あらためて作品の魅力について

大沢 演出の立山ひろみさんとも話していたんだけど、この作品は今回で3回目の上演。2018年の初演時は、まさに話の内容がリアルタイムで、これからオリンピックがあるという状況でした。私たちが出演した新演出版（2020年）は、オリンピックの延期が決まった中での上演で、初演時と状況が変わっている。今回はオリンピックも終わって、けれどもコロナ禍という問題が続いている中での上演になるので、お客さんがどう観るのかな、どういう風に受け取るのかな、というのが楽しみです。実際の事柄を扱った話は、旬な時期を過ぎてしまうと、上演されなくなることが多いので、これだけ上演し続けられるということ自体、すごく珍しいことですし、同じ作品でも見え方・感じ方が変わってくる、それがこの作品の魅力でもあるし、それぐらい続ける意味のある作品だと思います。オリンピックがもはや過去のこととなった今に観るからこそ、逆に家族とかの関係性にクローズアップされるのかなと思ったりして。そういう意味で、今回の見え方、っていうのはすごく楽しみです。

東風 魅力・見どころはたくさんあって、今や

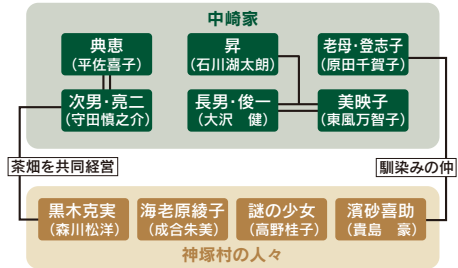
る意味もそう。きつと観る人みんなに、どこか重なる部分がある。一回上演してはいても、前回から2年経って、いろいろ吸収してきた役者たちがもう一回集まって作品を作るので、私たち役者のアンサンブルで生まれてくる。家族のストーリーとか、それぞれの関係性や思いとか、そういった部分もぜひ楽しんでほしいですね。

大沢 息子・昇役と、俊一の弟・亮二役が新たなキャストになる*2ので、そういう意味では再演といえども、もう一度新しく創るという感じがあります。

東風 登場人物それぞれにストーリーがある作品で、みんな抱えているもの、生きてきたそれぞれがある。観る人もそれぞれの立場で共感できるポイントがある。そこが魅力ですよ。いろんな人が共感できるポイントがあると思います。

石川 僕は台本を読んで、限界集落や神楽と

■ 関連図



いった大きいベースの中に、介護の問題や若者の人手不足だったり、それこそオリンピックのことだったり、さまざまな要素が含まれていて、社会性のある作品だと思っていました。単なる宮崎にある一つの村のできごと、ということだけではなく、普遍的な社会問題が内包されている。かと思えば、謎の少女が出てきて、神秘的な要素もある。社会性とファンタジー要素が融合して、ふわふわした読後感があって、これはおもしろいなと思いました。

―話は変わりますが、宮崎でしたいこと、行きたいところなどありますか？

大沢 前回いろいろ行ったからなー(笑)。今回行けるかどうか分からないけど、霧島とか温泉の方は行ってないので、宮崎で温泉を……。

東風 また遠出になりますね(笑)。

大沢 行きたくて行ってみたら、意外に遠いなんて思いますね(笑)。宮崎広いんだってことがよく分かる。地図だけ見ていると、近いように見えるんだけどね。実際に行ってみたらすごく遠い。宮崎の広さを実感しました。

東風 地図を見るだけだと分からないですよ、体感しないと。私はきんかんをたくさん食べようと思っています！2月は旬なんですよ。めっちゃめっちゃ美味しい。『幻視』*3で宮崎に来るまでは、そこまで好んで食べてはいなくて、でも宮崎のきんかんを食べたら本当に美味しくて。稽古場に差し入れていただいて、休憩の度に食べていたら、ほとんど私が食べました(笑)。東京でも宮崎産って書いてあるきんかんを見つけると、買うようになりました。

石川 えー！絶対食べたい！

大沢 時期のもの食べるっていうのはいいね。

石川 僕は宮崎初めてなんですけど、宮崎はマンゴーとか地鶏っていうイメージで、美味しいものが多いのになって漠然と思っていて。今回大沢さんにいろいろお店を教えてください。地鶏を食べて衝撃を受けました。食感が全然違って、「本物だ！」って。すでに宮崎が好きです*3……2020年2～3月にかけて上演の同シリーズ#4。



石川 湖太郎
俊一の息子、中崎昇役



ビジュアル撮影の様子

(笑)。気候もすごく気持ちよくて、住みやすいんだろうなって思います。今から来年が楽しみにになりました。

大沢 うどんをね、ぜひ食べてほしい。柔らかいうどん。

東風 宮崎のうどんは美味しい。大好きです。

大沢 あれは、東京ではあまり食べられないよね。あの味はなかなかない。

石川 えー！楽しみー！

大沢 僕が宮崎に来たら必ず行くのは大盛うどん。あと、釜揚げうどんで戸隠と織田薪っお店もおすすめ。

石川 話聞いているだけで、おなか空いてきますね(笑)。

―最後にお客様にメッセージを

大沢 この作品は、家族の話だったり、限界集落が抱える過疎化のことだったり、いろいろな要素が含まれています。その中で家族を神楽が結ぶ、実際に神楽を舞うシーンがある。しかも、これが一夜という限られた時間の中で繰り広げられる話で、いろいろな要素が薄まることなく濃密に描かれている。すごくよくできた作品だと思っています。宮崎の方もそうですけど、今回初めて観る東京の方がどういう風に作品をとらえるのかなっていうのもすごく楽しみです。同じ作品でもキャストが一部変わっているの、おのずと違うものが生まれてくると思います。一度観た方にもぜひ観て欲しいです。きつとお客さまの誰もが、自分の何かと重ねて観るでしょうから、すごく演じる側と

しては楽しみです、ぜひ自分の何かと重ねながら、観ていただけたらと思います。

東風 一部キャストが変わるので、作品の見え方は変わっていると思いますし、前回ご覧になった方も2年経って、その2年間生きてきた上での作品の受け取り方って違うと思うので、また観ていただいて、いろんなものを感じていただきたいです。もちろん、観たことのない方には、今この瞬間に観ているいろいろ感じていただけたらと思います。宮崎という土地で、みんなで作った作品をお届けしますので、ぜひ劇場で楽しんでいただきたいです。

石川 今回来県して、周りの環境や人に触れて、とてもあたたかい気持ちになりました。宮崎の気候だけじゃない人間のあたたかさみたいなものを、舞台上で出せるようにしたいと思います。作品の中で、もちろん人間関係の冷たさや緊張がある中で、最後にはあたたかいものがふわあつてしみると思うので、お客さんにもそう感じてもらえるようにしたいですね。この先、コロナの状況は見通せないですけど、以前よりは実家に帰って、家族や地元の友人に会える状況になりつつあると思います。きつと、この作品を観たら、みなさんどこか懐かしさを感じる。そうなった時に、祖父母、親、地元の友達とかに、会ってみたい、ちょっと電話してみようかなってそういう気持ちになってくれたらいいなと思います。ぜひ楽しみにしててください。

公演情報

『新 かぼちゃといもがら物語』#7 『神舞の庭』

■宮崎公演 2023年3月1日(水)～5日(日)
〈平日〉開場18:30 開演19:00
〈土日〉開場13:30 開演14:00
会場：メディキット県民文化センター（宮崎県立芸術劇場）イベントホール

■東京公演 2023年3月11日(土)・12日(日)
〈両日とも〉開場13:30 開演14:00
会場：東京芸術劇場 シアターウエスト

[作] 長田育恵 [演出] 立山ひろみ
[出演] 大沢健、東風万智子、石川湖太郎、貴島豪、平佐喜子、成合朱美、森川松洋、守田慎之介、高野桂子、原田千賀子



『神舞の庭』(2020年) ©黒木朋子

*1……2020年東京公演を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。 *2……息子・昇役に石川湖太郎、俊一の弟・亮二役に守田慎之介。

ひなたのバロック #4

音楽を愛するみなさまへ、18世紀ハンプルクより



大塚 直哉
(企画・監修／チェンパロ)

バロック音楽を代表する作曲家の一人テレマン。その作品数の多さは群を抜いていてギネスブックにも認定されているとか。心にとっと入ってくる親しみやすい響きの秘密のひとつは、彼の“楽器愛”にあると言われていいます。楽想の展開にとどまらず、楽器編成、出版などいろいろな面で“アイデアマン”であったテレマンの魅力に演奏、トークの両面から迫ります。

音楽学者で、テレマンを中心とする18世紀前半のドイツ音楽が専門の佐藤康太さんに、今回の公演やテレマンについて伺いました！



佐藤 康太
(音楽学者)

当時大人気だった売れっ子作曲家にして、バッハやヘンデルをはるかに上回る量の作品を残したテレマン。作曲だけでなく、コンサートのマネジメント、楽譜出版、音楽教育などなどさまざまな領域で足跡を残したスーパーマルチタレントの素顔に、名曲と専門家のお話で迫ります。

ポイント 1 テレマンのあきんど道中

市民に楽譜を売りまくれ!? 商人の町ハンプルクで、自ら楽譜出版社を立ち上げたテレマン。オトクなまとめ買い制度から当時最新鋭の印刷技術、音楽家のコネを利用した販売ネットワークに至るまで、楽譜商テレマンの秘密を大解剖！

ポイント 2 いつでもテレマンどこでもテレマン

お家でも教会でも、2人でも3人でも！楽器が足りなくなってもOK！いつでもどこでもお気軽に、安心してご利用いただける超フレキシブル作品のご紹介。今年のイースターの音楽はテレマンで決まり！ぜひあなたのご家庭にも！

ポイント 3 テレマン研究最前線！

テレマンの曲って全部で何曲あるの？ぶっちゃけハズレの曲とかないの？当時人気だったって言うけどなんでバッハの方が今では人気があるの？テレマンの生地／聖地マクデブルクに通い詰めること約10年、ついにはテレマンで博士号まで取ってしまった、日本で一番テレマンに詳しい男が何でもお答えいたします！



演奏する楽器

ヴィオラ・ダ・ガンバ

ヴィオラ・ダ・ガンバという楽器は16世紀から18世紀にヨーロッパで用いられた擦弦楽器です。ヴィオラ・ダ・ガンバはイタリア語で脚の弦楽器という意味で、脚で支えて演奏されます。それに対しヴィオラ・ダ・ブラッチョ(腕の弦楽器)と呼ばれたのがヴァイオリン属です。ヴァイオリン属と同じように音域の違う幾つかのサイズがあり、属をなしています。

今回使うものはその中でもチェロとほぼ同じ音域の「バス」になります。

ヴァイオリン属との形状の違いとしては、ギターのように指板には7つのフレットがあり、弦は6、7本で、表板はふくらみがあるが、裏板は平らで、それらの構造の違いによりヴァイオリン属とは違う音色であったり、重音奏法が容易にできたりします。

今回使用する楽器は、1721年以降テレマンも活躍するドイツのハンプルクで、1703年にヨアヒム・ティールケによって製作されたオリジナル楽器です。

(西谷尚己)



[プログラム]テレマン：
・リコーダー、ヴィオラ・ダ・ガンバと通奏低音のトリオ・ソナタ ヘ長調
・ヴィオラ・ダ・ガンバと通奏低音のソナタ ホ短調
・リコーダーと通奏低音のソナタ ヘ長調(『忠実な音楽の師』から)
・無伴奏ファンタジア(リコーダー ソロ)
・ファンタジア ヘ長調(チェンパロ ソロ)
・カンタータ「諸国の人々よ、聞け!」(『音楽の礼拝』から) ほか

公演情報

ひなたのバロック#4

2023年2月5日(日) 開場 13:30／開演 14:00

会場：メディキット県民文化センター(宮崎県立芸術劇場) イベントホール

[出演]大塚 直哉(企画・監修／チェンパロ)、佐藤 康太(音楽学者)
藤崎 美苗(ソプラノ)／宇治川 朝政(リコーダー)
西谷 尚己(ヴィオラ・ダ・ガンバ)

聖なる夜、クリスマス・イブの昼下がり

怒濤の盛り上がりを見せた#1「信者じゃないのにクリスマス?」*

覚めやらぬ興奮に引き続いて、皆様にお届けする第2弾

*本記事は、公演前に執筆しています。

加藤昌則の

聴かぬなら聴かせてみせよう!!

クラシック #2

しっとく なっとく まる得クラシック



#2のテーマは「室内楽」。

オーケストラに比べると「地味」で「退屈」と思いがちですがクラシック音楽を語る上では、絶対に外せないジャンルです。

#2では、そんなクラシックの王道の魅力と醍醐味を音楽祭でお馴染みの演奏家を交えてお届けします。

ところで、こんなに人も楽しませながら、音楽を分かってしまう希代のコンポーザー／ピアニストの加藤昌則とは、一体どういう人なのか？次回公演への期待を胸に、その来歴にせまってみます。



加藤昌則
(ピアノ・ナビゲーター)

一音楽との出会い、始めたきっかけは？

近所の女の子です。なみちゃんという一つ年下の幼馴染みなんですが、その子がピアノをやっている。でも遊びに行くと、お母さんから練習の邪魔だと思われてる…という空気を感じて。自分もピアノをやれば遊びに行きやすくなるし、もっと仲良くもできるだろうという不純な動機です。それが小学校の2年生のときです。

一その年頃だと、女の子と遊ぶのは恥ずかしいのでは？

もちろん、男の子とも遊んでましたけど、女の子とも仲良くしてました。

一さすがです。

で、不純な動機なのに続いちゃったと。

だから親も分かっている、ピアノを買ってもらえたのは半年ほどしてからでした。その間、家では紙の鍵盤で練習をしてたんですけど、週に一度、教室に行くと紙でカタカタやっていたのが音になって出てくるのが嬉しくて、その音に感動してました。

一ポジティブですね。では、作曲は？

これも習い初めて楽譜の記号を少し覚え始めた頃。なみちゃんのところでもト音記号を書いて見せて、その隣に音符を書いてみたら、あれ?これ弾けるんじゃないかと。紙に書いたものが音になるということが新鮮でとても興味を覚えました。それからショパンの曲なんかを聴いても「あの記号の中にこの音楽が入ってるんだ、すげえ!」という感じで。「カッコいい!」と思った曲を、例えばシューマンのピアノ協奏曲なんかの楽譜を教室に持って行って「先生、これ弾きたい!」。先生も

困ったみたいで4年生のときに、先生の先生を紹介してもらって、やっぱりその先生の伝手で作曲の先生もご紹介いただいで一週間交替で通ってました。

一では、その頃から音楽の道に進もうと？

全くありませんでした。僕も周りも男の職業としての音楽というイメージがなかったんです。それで古文を専攻しようと思って受験の準備をしていたんですが、やっぱり好きなことをやっておかななくて後悔しないかな…と。結局、後悔しない方を選びましたが、高校3年生の夏前でしたから遅いです。先生からも一浪は必要と言われながら、とにかく広く畑を耕すように一通りのことを必死でやりました。そうしたら現役で受かってしまっ。

一それは凄い。

で、大学では作曲課題があるんですが、提出した作品の演奏を、これはと思う人に頼んだんですけど、弾けない。僕が書いたのはガチガチの現代音楽で、そんなの演奏したことがないわけ。でも実演しないと進級できないので、これは自分で弾くしかないで2週間毎話になって練習しました。それでジャカジャカ現代音楽を弾いたら「あいつできるぞ!」って、他の学生から演奏依頼が来るようになったんです。ところが、あるときコンクールの伴奏を頼まれてレッスンに同行したら、先生は「すぐにピアニストを変えなさい」。僕の演奏は全然なっていないからわけです。そこで、これまで作曲のために広く耕してきた畑を、今度は一箇所ずつ時間を掛けて教わることにしました。その頃、僕はこんな風にクニャクニャと身体で弾いていて、最初に言わ

れたのが「それは必要ないわね」と。行為として音楽をしていたんですね。その行為を押さえると音楽でなくなるようでとても苦しかったです。でも1年ほどすると、聞こえない音が聴こえてくるんですよ。そしてそれが分かってと身体が動かさなくなる。音楽の行為がもっと連観的になっていくというのか…これは大きな経験でした。そうした出来事はその後一杯あったし、そうした発見が今でもあるからピアノと作曲を続けているんだと思います。

一なるほど。では、加藤さんにとっての音楽(クラシック)の魅力とは？

言葉では届かない想いを端的に満たしてくれるもの。言葉以外に自分を表現できる手段を持っているって凄く幸せなことだと思います。でも、音楽を聴くことで心を動かされる体験を知っていることもすごく幸福なこと。で、日常を豊かにしてくれるものだと思います。僕はクラシック以外の音楽もやりましたし、どの音楽にもその音楽にしかない魅力がありました。でもそれらの中で、もっと探求してみたいと思ったのがクラシックだったわけ。そして、その魅力は誰にでも知っていただくことができと思っています。

加藤さん独特の視点や感性の源泉。チャリと見たでしうか？

「クラシックの魅力は室内楽の面白さを知らなければ分らない」とも語っていた加藤さん。#2では、どんな探検に連れて行ってくれるのでしょうか。乞うご期待ください!

※写真は第26回宮崎国際音楽祭での公演の模様



公演情報

加藤昌則の「聴かぬなら聴かせてみせよう!!クラシック」#2
しっとく なっとく まる得クラシック

2023年1月21日(土) 開場 13:30／開演 14:00

会場：メディキット県民文化センター(宮崎県立芸術劇場) 演劇ホール

[出演者] 加藤昌則(ピアノ・ナビゲーター)、川田知子(ヴァイオリン)、須田祥子(ヴィオラ)、向井 航(チェロ)

Miyazaki アウトリーチアーティストツ・ エキシビション #6

第6期生となる緒方真樹子さん(ピアノ)、小坂厚子さん(クラリネット)は、令和3年からの約2年間、音楽アウトリーチ事業のアーティストとして県内各地の施設、学校を訪問し、たくさんの方々に演奏をお届けしてきました。そんな彼女たちも、このコンサートで卒業となります。本公演は、彼女たちがこの2年間で培ってきた“音楽を伝える力”を披露する、集大成のコンサートです。

音楽アウトリーチとは？

コンサートへ行く機会や生の音楽に触れる機会の少ない方々に、音楽をお届けすることを目的として、平成23年度より実施している訪問演奏活動です。幼稚園、保育園、小・中学校、福祉施設等、年間約20か所を訪れ演奏を行っています。



出演者からのメッセージ

おかた まきこ
緒方真樹子 (ピアニスト)

私にとってお話をしながらのアウトリーチは準備も本番も挑戦の連続でしたが、関係の皆さま・身近な方々に支えていただいて、音楽を届けること・聞いていただき共に楽しむことの有り難さを改めて噛みしめた、学びと感謝の溢れる2年間でした。各公演、緊張反省はありますが、出会いにそして、子ども達の真剣な眼差しと喜ぶ笑顔や発言に力を頂き、1回1回の公演が嬉しくかけがえのない時間でした。2月のエキシビションコンサートでは皆さまに音楽を楽しみ味わっていただけますように、感謝の気持ちで心を込めて演奏させていただきたいと思います。

こさか あつこ
小坂厚子 (クラリネット奏者)

この2年間あっという間でしたが、たくさんのお会いや学びがありました。公演先での下見や打ち合わせ、本番当日の準備など。演奏することしか知らない私でしたが、さまざまな人たちの関わりによって演奏会というものが出来上がっているのだと実感しました。また心配なことや、分からないことがあるといつもサポートしてくれる劇場スタッフ、アドバイザーの先生方の存在に感謝しています。エキシビションでは、これまでに関わった全ての方への感謝の気持ちを込めて、今まで学んできたことを聴いている方たちに届けたいと思います。

公演情報

Miyazaki アウトリーチアーティストツ・エキシビション#6

2023年2月12日(日) 開場 13:30/開演 14:00

会場:メディキット県民文化センター(宮崎県立芸術劇場)
アイザックスターンホール

[出演]緒方真樹子(ピアノ)、小坂厚子(クラリネット)、佐貫冨美(ピアノ伴奏)
桐原直子(ご案内)

[プログラム]ラヴェル:クープランの墓
ブラームス:クラリネット・ソナタ 第1番 ヘ短調 作品番号120-1



令和3、4年度
音楽アウトリーチ開催地

●訪問箇所
[幼稚園・保育園] 15か所
[小・中学校] 14か所
[福祉施設 その他] 5か所

ピアニスト
緒方真樹子

クラリネット奏者
小坂厚子

関連企画

パネル展

アウトリーチの趣旨や内容、活動風景など写真を通してお伝えします。

2023年1月6日(金)～2月12日(日)
メディキット県民文化センター
1階エントランス

2023年
1月17日(火)～1月31日(火)
県電ホール
(宮崎県庁宮崎県企業局内1階)
(午前9時～午後8時)

ミニコンサート

アウトリーチで行っているプログラムを少しでも楽しみたいだけのコンサートです。

2023年1月26日(木)
12:30～12:50
[出演]小坂厚子、佐貫冨美
野口遵記念館(フリースペース)

2023年1月31日(火)
12:30～12:50
[出演]緒方真樹子
県電ホール
(宮崎県庁宮崎県企業局内1階)

入場料
無料

令和5年度の開催団体(会場)を募集中!

対象となる団体は、幼稚園、保育園、小・中学校、各施設等です。申込期限は、2023年1月25日(水)必着です。詳しくは劇場HP、または応募チラシをご覧ください。

'22 みやぎの舞台芸術シリーズⅡ

劇団いかがなものか 第4回公演

喫煙室 2023

宮崎県高等学校文化連盟演劇専門部で要職を務めた段正一郎さん。その段さんが自ら立ち上げた劇団の公演が、今年度の「みやぎの舞台芸術シリーズ」の第2弾として登場します。劇団結成のきっかけ、今回の公演などについて段さんにお話を伺いました。

— 劇団結成のきっかけを教えてください。 —

現在は定年退職をしていますが、元々、県立高校の教員として演劇部の顧問をしていたんです。今でも当時の演劇部の教え子たちとお正月に集まることがあって、そのたびに「あの役は、今だったらどう演じるだろう?」というようなことを話していたんです。そうやって過ごしていたら、ある年、教え子の奥さんのひとりから「先生、劇場を借りますけど、県劇と市民文化ホールと清武とどれがいいですか?」って言われて。「え!マジ!?」って(笑)。言ってきたのは今の劇団員なんですが、話せばっかりで行動に移さない私達に、もどかしさを感じていたんだと思います。そのことがきっかけになって劇団を結成することになりました。劇団名は、僕がFacebookに載せている趣味のイカ釣り日記「イカがなものか」のタイトルを平仮名にしたもので決まりました。

それで、「僕が1月中に台本を書くから、5月の連休に公演をしよう!」ということになって。それまで10年くらい台本を書いていなかったんですが、劇団員や客演してもらいたい宮崎の役者さんをイメージしながら5人の密室劇を書き進めて、実際に1月中に書き上げることができたんです。当初は2020年5月の上演を予定していたんですが、新型コロナウイルスの影響で延期になってしまっ、翌年2月に無事上演することができました。それが、今回再演する『喫煙室』です。

—『喫煙室』を執筆するにあたって、あらかじめ構想などがあったのでしょうか。 —

心の片隅にずっと「こういう作品を書きたい!」という思いがありました。その理由は2つあって、1つは喫煙室という空間にとっても興味があったということ。独特の連帯感みたいなものを醸し出す喫煙者達が

集うあの密室のコミュニティの中は、どうなっているんだろう?という興味です。もう1つの理由は、学校、そして学校の中の喫煙室という構造を通して、個人が個人に対してとても厳しくなってしまった最近の風潮を象徴的に描けるのではないかなと思ったからです。僕は学校現場で教頭もしましたが、その時は、仕事の半分が外部からの苦情電話への対応というような経験もしました。人間の行為のなかで最も愚かかもしれない喫煙という行為の中に、そうした社会的課題の本質を考えるヒントがあるんじゃないかなって思ったんです。

—今回、宮崎出身の俳優・山田キヌヲさんがスペシャルゲストとしてご出演されます。 —

僕が20代の頃に演劇部の顧問をしていた学校があって、その後、他校に転任して、10年後に再び同じ学校に戻ってきたら、演劇部が休部状態になっていたんです。それで、年度始めの学年集会で自己紹介をするときに「みなさん、僕は演劇部の顧問をしています。今は部が休部で活動していないから一緒にやりませんか?」って呼びかけをしたら15人くらい生徒が集まってくれて。その中に山田さんもいました。山田さんとは卒業後も連絡をとる機会があって、今回、初演に出ていた劇団員1名が出られなく

なったことで相談してみたら、出演してもらえることになったんです。山田さんが宮崎で舞台に出演するのは、2008年のみやぎ演劇祭『白いおうむの百貨店』以来です。プロの現場で経験を重ねた、今の山田キヌヲさんを宮崎のお客様に見ていただけるのが嬉しいですね。

— 今回の公演を経て、劇団としてはどのような活動をお考えでしょうか。 —

高校演劇の顧問として活動するなかでは、イベントホールはそんなに遠い存在ではなかったんです。ただ、自分の劇団でやるとなるとやっぱり、ひとつの花道というか表舞台みたいな感じがして。今回の公演で目標のひとつを叶えることができるので、次は、宮崎県立芸術劇場の「新 かばちゃといもがら物語」シリーズのような、宮崎を舞台にした芝居を自分でも作ってみたいなという思いは持っています。

—お客様へメッセージを一言お願いします —

会場まで来てもらい、観劇のためにお時間も頂戴してと、ご来場いただけるお客様には、今から「ありがとうございます」という言葉しかありません。公演を観てくださったお客様から「観に来てよかった!」と思ってもらえたら、一番嬉しいです。



『喫煙室』初演時(2021年)の様子

～あらすじ～

ひと昔前の話。
ここはある県立学校の喫煙室。いまやすっかり肩身の狭くなった喫煙者が、ひとときの癒しを求めてやってくる。
管理職の受けがあまり芳しくない青田先生と教員2年目の柳田先生。苦情電話の対応になにかと気苦労の多い教頭先生。定年間近の物静かな永山先生に、こんなところにはいけないはずの養護教諭の田中先生。
そこに、次年度から敷地内禁煙が決定したという情報も新たに入ってきて…。

公演情報

'22みやぎの舞台芸術シリーズⅡ 劇団いかがなものか『喫煙室2023』

2023年1月28日(土) 開場18:30 開演19:00
1月29日(日) 開場10:30 開演11:00/開場15:30 開演16:00

会場:メディキット県民文化センター(宮崎県立芸術劇場) イベントホール

[作・演出]段 正一郎

[出演]山田キヌヲ、蛭原達朗、真部法人、伊藤 海、村田遼太郎

メディキット県民文化センター(宮崎県立芸術劇場) 自主事業公演チケット情報

※2022年12月14日時点の情報です。

1月15日(日) 開演 14:00	アイザックスターン ホール	ニュー・イヤー・コンサート2023 ～ピアノ・ザ・ファイナル～ 【出演】三浦一馬(バンドネオン)、宮田大(チェロ)、上野耕平(サクソフォン)、大萩康司(ギター)、山中惇史(ピアノ) 〈全席指定〉 一般4,000円(3,600円)/U25割2,000円	チケット発売中
1月21日(土) 開演 14:00	演劇ホール	加藤昌則の「聴かぬなら聴かせてみせよう!!クラシック」#2 しっとく なっとく まる得クラシック 【出演】加藤昌則(ピアノ・ナビゲーター)、川田知子(ヴァイオリン)、須田祥子(ヴィオラ)、向井航(チェロ) 〈全席自由〉 一般2,000円(1,800円)/U25割1,000円	チケット発売中
①1月28日(土) 開演19:00 ②1月29日(日) 開演11:00 ③1月29日(日) 開演16:00	イベントホール	'22みやざきの舞台芸術シリーズII 劇団いかなものか『喫煙室2023』 【出演】山田キヌヲ(ノックアウト)、蛭原達朗(劇団SPC)、真部法人(劇団SPC)、伊藤海(劇団FLAG)、村田遼太郎(劇団いかなものか) 〈全席自由〉 一般2,500円/高校生以下1,500円	チケット発売中
2月5日(日) 開演 14:00	イベントホール	ひなたのバロック#4 【出演】大塚直哉(企画・監修/チェンバロ)、佐藤康太(音楽学者)、藤崎美苗(ソプラノ)、宇治川朝政(リコーダー)、西谷尚己(ヴィオラ・ダ・ガンバ) 〈全席自由〉 一般2,000円(1,800円)/U25割1,000円	チケット発売中
2月12日(日) 開演 14:00	アイザックスターン ホール	Miyazaki アウトリーチアーティスト・エキシビション#6 【出演】緒方真樹子(ピアノ)、小坂厚子(クラリネット)、佐賀牙美(ピアノ伴奏)、桐原直子(ご案内) 〈全席自由〉 一般1,000円(900円)	チケット発売中
2月25日(土) 開演 15:30	アイザックスターン ホール	NHK交響楽団演奏会 宮崎公演 【出演】尾高忠明(指揮)、辻彩奈(ヴァイオリン)、NHK交響楽団(管弦楽) 〈全席指定〉 S席6,000円/A席5,000円/B席4,000円/C席3,000円/ユースチケット3,000円[S席のみ] ※ユースチケット(小学生～25歳以下の方対象)の取り扱いにはローソンチケットのみ。当日入場時に年齢の確認をいたします。	チケット発売中
3月1日(水)～3日(金) 開演 19:00 3月4日(土)・5日(日) 開演 14:00	イベントホール	「新 かぼちゃといもがら物語」#7 『神舞の庭』 宮崎公演 【出演】大沢健、東風万智子、石川湖太郎、貴島豪、平佐喜子、成合朱美、森川松洋、守田慎之介、高野桂子、原田千賀子 〈全席自由・日時指定〉 一般3,500円(3,100円)/U25割1,500円/ペア割6,000円(5,400円)※前売りのみ	チケット発売中
3月5日(日) 開演 11:00	アイザックスターン ホール	おんがくのおもちゃ箱シリーズPart.16 クラシック編 【出演】中川賢一(ピアノ)、鶴木絵里(ソプラノ)、熊谷愛香(フルート) 〈全席自由〉 3歳以下無料※膝上鑑賞にご協力ください。/4歳以上500円/なかよしチケット700円 ※4歳以上2人1組(前売りのみ)	チケット発売中
3月11日(土)、12日(日) 開演 14:00	東京芸術劇場 シアターウエスト	「新 かぼちゃといもがら物語」#7 『神舞の庭』 東京公演 【出演】大沢健、東風万智子、石川湖太郎、貴島豪、平佐喜子、成合朱美、森川松洋、守田慎之介、高野桂子、原田千賀子 〈全席指定〉 一般3,500円/U25割1,500円/ペア割6,000円※前売りのみ/高校生以下1,000円	チケット発売中
3月26日(日) 開演 14:00	演劇ホール	室内楽の花束 【出演】ヴァイオリン:徳永二男、漆原朝子、野口千代光 ヴァイオリン・ヴィオラ:川崎雅夫 チェロ:毛利伯郎 ピアノ:三上桂子 〈全席自由〉 一般:2,000円(1,800円)/U25割:1,000円/親子割:2,500円 ※小・中学生+一般	1月15日(日) 一斉発売

【Attention(ご注意)】◎記載情報は変更になる場合があります。◎()内はくれっしえんど倶楽部会員価格です。◎U25割は鑑賞時25歳以下が対象。その他の割引サービスの詳細は、劇場HPをご覧ください。◎当日券が出る場合は、一般チケットのみ500円増になります。※一部公演除く ◎託児サービス(有料・事前申込要)がご利用いただけます。※一部公演除く

劇場休館のお知らせ

期間の目途 **令和5年夏～令和6年**

令和5年8月以降の施設利用の予約については、受付を停止いたします。

宮崎県立芸術劇場では、耐震性の強化を図るため、施設設置者である宮崎県による天井の改修工事の実施が見込まれております。この工事実施予定に伴い、下記のとおり施設を休館する予定です。施設のご利用や公演の鑑賞でご来館いただいている皆様には、ご不便をおかけすることになり、大変心苦しい限りですが、ご理解とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。
※工事期間等、詳細についてはわかり次第、劇場ホームページ等でお知らせいたします。



お問合せ



宮崎県立芸術劇場
MIYAZAKI PREFECTURAL ARTS CENTER

おんがくのおもちゃ箱

シリーズ Part.16 クラシック編

2023年3月5日(日) 11:00開演
アイザックスターンホール

0歳のお子様から音楽に楽しく触れることができる、ママやパパにも大人気のシリーズ! さまざまなクラシック曲を、お話やクイズ、手遊びなどを交えながら、親子そろって楽しめるプログラムをお届けします。赤ちゃんが泣いてしまっても大丈夫! 大きくて響きがきれいなアイザックスターンホールで、親子一緒にクラシックデビューしませんか?

チケット好評発売中!

中川賢一(ピアノ)

鶴木絵里(ソプラノ)

熊谷愛香(フルート)

前回の様子

〒880-8557 宮崎市船塚 3-210
http://www.miyazaki-ac.jp/

TEL.0985-28-3208 FAX.0985-20-6670
Twitter and facebook 随時更新中! 「フォロー」と「いいね!」お待ちしております